

【成長戦略課題候補】施設トマト栽培における「茎えそ細菌病」の感染防止対策技術の確立（R6～8）

総合農業技術センター・環境部・病害虫科

背景・目的

- 本県では企業参入や新規就農により施設トマトの生産が増加している。しかし、茎えそ細菌病やかいよう病など細菌性病害による枯死が問題となっており、施設の3割程度の株が枯死する事例もみられている。
- かいよう病は、これまでの調査でかん水資材に菌が存在することが判明し、作替え時の消毒で被害軽減がみられている。一方、茎えそ細菌病は感染経路や防止対策が明らかになっていない。
- 茎えそ細菌病の症状は、かいよう病と区別しにくく、現地では混同されていることが多い。対策にあたり現場レベルでの簡易な判別方法や病害ごとの有効な対策を明確にする必要である。

【本研究の目的】

- ◎茎えそ細菌病の感染経路の調査と対策技術の確立
- ◎茎えそ細菌病の特性比較やかいよう病との簡易な判別方法の明確化



「茎えそ細菌病」による茎病斑と枯死症状

研究内容

1年目

1. 茎えそ細菌病の感染経路解明

- ・感染可能部位の調査
- ・次作への伝染源の調査

2年目

- ・資材消毒・防除薬剤の評価

3年目

2. 茎えそ細菌病の特性把握

- ・県内の茎えそ細菌病の種の解析
- ・茎えそ細菌病簡易判別法の検討

- ・効果的な防除対策の検討

期待される成果

- 細菌性病害発生時に現場レベルでの判別が可能となり、発生病害に応じた効果的な対策が可能となる。
- 各細菌性病害の被害が抑制でき、生産性が維持できる。
- 施設トマト農家の経営の安定化が期待できる。

主な県内産地等のトマト栽培面積

・旧中巨摩東部	19.4ha
・旧富士川	1ha
・梨北	2ha
・法人施設	16.9ha

